



vol. **2**

先端観光科学研究センターは、これまでにない文理医融合の学際的アプローチと国際的な共同研究、そして地域との協働によって、観光に関連する行動、移動、サービス、政策・制度について科学的に研究することを目的に設置されました。科学的な成果によって、観光による未来変革を先導し、観光の促進と地域の持続的な発展に寄与することを目指しています。

この目的にしたがい、さまざまな研究活動を展開しています。本号では、研究会「旅館—地方創生に向けたおもてなし」、研究会「関係人口は役に立つか？ 第3のかかわりをとらえる」、講演会「訪日メディアMATCHAの起業とインバウンド観光の可能性」とコラム「法人主導研究課題について」を掲載します。

INDEX

- 法人主導研究課題について…………… ②
- 講演会報告
 - ・訪日メディアMATCHAの起業とインバウンド観光の可能性…………… ②
- 研究会報告
 - ・関係人口は役に立つか？
第3のかかわりをとらえる…………… ③
 - ・旅館—地方創生に向けたおもてなし…………… ④

法人主導研究課題について

金沢大学には、法人主導(トップダウン)型研究課題という公募制度があります。これは、本学が重視する今後ますます重要となっていく研究課題に研究費を付ける制度です。文理融合の観光科学研究を推進していくこと、世界的な観光科学研究の拠点となることを期待され、採択となりました。研究課題名は「COVID-19収束後に向けたDX観光の課題と機会:リスク、持続可能性、地域性、真正性に対する観光体験の変容の解明」です。

金沢を中心としたフィールドで、センシングや移動

のリアルタイムデータなども駆使しながら分析を行い、さらには社会実験を行うことで検証・評価するというサイクルで研究を進めていく予定です。その中で、国際共同研究を貪欲に進めていきます。地域と科学の総合知で、新たな観光価値を創出するイノベーションを起こし、全ての人々が、快適、安全・安心に観光を楽しめる共存社会の実現に貢献したいと思っています。ぜひ、関係のみなさまと共同研究を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします(堤敦朗)。

講演会報告

訪日メディアMATCHAの起業とインバウンド観光の可能性

2022年3月8日、株式会社MATCHA代表取締役の青木優氏を講師に招き、オンライン講演会「訪日メディアMATCHAの起業とインバウンド観光の可能性」を行います。

した。このイベントは金沢大学融合学域と共催し、観光デザイン学類の設置プレイベントとしても行われました。多言語による訪日メディアMATCHA(注1)の起業家としての青木氏の学生時代から起業に至るライフストーリーを共有いただいたことでなぜ訪日メディアを立ち上げたのか、そしてどのように影響力のあるメディアを育てたについて具体的なイメージを得ることができました。また、青木氏がアシスタントとして参画したGoogleと連携した軍艦島ストリートビューのプロジェクト(注2)などを紹介しながら、共感力の切り取りを

MARCH 8
10:30 - 12:00
ONLINE

金沢大学
先端観光科学研究センター
特別講演会
融合学域観光デザイン学類
設立プレイベント

訪日メディアMATCHAの起業
とインバウンド観光の可能性

先端観光科学研究センターは日本最大の訪日観光メディアMATCHAを創業された青木優氏をお招きし、訪日メディア事業起業の挑戦と課題、インバウンド観光の可能性についてお話しいたします。また、本講演会は4月に設立される観光デザイン学類のプレイベントです。青木氏の学生時代のエピソードやこれから観光を志す学生たち、観光人材を育てる教育機関への期待についてもお話いたします。観光や起業に関心のある学生のみなさん、ぜひご参加ください。

プロフィール
青木 優
1989年、東京生まれ。明治大学国際日本学部卒。株式会社MATCHA 代表取締役社長。内閣府クールジャパン・地域プロデューサー。学生時代に世界一周の旅をし、2012年ドーハ国際ブックフェアのプロデュース業務に従事する。デジタルエージェンシーaugment5 incに勤めた後、独立。2014年2月より訪日外国人観光客向けWEBメディア「MATCHA」の運営を開始。「MATCHA」は現在10言語、世界180ヶ国以上からアクセスがあり、様々な企業や県、自治体と連携し海外への情報発信を行っている。

申し込み
<https://reserve.be.tabisから>ご登録ください。お申込み後、zoomリンクが届きます。

FCTS The Frontier Center for Tourism Science Kanazawa University

MATCHAについて

日本最大級の訪日メディア「MATCHA」

Language: English, 日本語, 中国語, 韓国語, 台湾語, 英語, 日本語, 中国語, 韓国語, 台湾語, 英語

Copyright © MATCHA Inc.

どのように行うのか、言語化できないものをどうメディアに載せるかについても、これまでの知見をもとに説明していただくことができました。メインの視聴者を大学生に設定したことで、アカデミズムへの示唆は弱かったことは否めませんが、観光における共感研究の重要

性や未来の観光デザインについての動機づけの高まる良い講演会でした(松田真希子)。

注1 MATCHA <https://matcha-jp.com/jp>

注2 軍艦島ストリートビュー
https://www.youtube.com/watch?v=c5kmKO_gGsc

研究会報告

関係人口は役に立つか？ 第3のかかわりをとらえる

2022年2月18日、オンライン研究会「関係人口は役に立つか？ 第3のかかわりをとらえる」を行いました。この研究会は、北陸4国立大学学術連携研究会(北陸先端科学技術大学院大学の敷田麻実研究室、富山大学の髙橋満彦教授、福井大学の田中志敬准教授、金沢大学の菊地直樹)として行い、北陸観光研究ネットワークと金沢大学先端観光科学研究センターが共催でした。

地域再生の現場やメディアに頻繁に登場するようになった「関係人口」は、「特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者」(注1)と定義されています。関係人口は、わかるようでわからない、地域に関わる関係者のマジックワードなのではないでしょうか。観光でも定住でもないと言われる「関わるよそ者」の役割や存在はどのようなものなのではないでしょうか。こうした問題意識に基づき、関係人口研究の第一人者である島根県立大学地域政策学部准教授の田中輝美先生を招き、高齢化と人口減少に直面する地域社会の人たちと地域外の第三者の協働や共創ができるのかについて議論しました。

田中先生の報告の後、髙橋先生のコーディネートにより、実際に移住した若者、経済人、研究者といった多様な人たちが意見交換を勧めました。行政からは地方創生のツールとして期待されていますが、行政との距離感とはどのようなものなのか。関係人口の信頼性はどのように創られるのか。地域を守るのは地域の人であり、関係人口はどのような枠割を果たすのか。移住した人たちの経済や暮らしはどのようなものなのか。

などなど、活発な議論が交わされました。先端観光科学研究センターの今後を考える上でも、とても有意義な研究会でした(菊地直樹)。

注1 田中輝美(2021)『関係人口の社会学—人口減少時代の地域再生』大阪大学出版会

研究会報告

旅館—地方創生に向けたおもてなし

2022年2月6日、*Ryokan* (注) という著書でも知られているシンガポール国立大学准教授のクリス・マクモラン先生を講師に招いた金沢大学国際学・観光科学セミナー「旅館—地方創生に向けたおもてなし」を行いました(主催: 金沢大学人間社会学域国際学類、共催: 金沢大学人間社会研究域附属先端観光科学研究センター)。

日本の旅館は、どのようにしてくつろげる空間になっているのでしょうか。マクモラン先生は、熊本県の黒川温泉の旅館で、働きながら観察するという参与観察を行ってきました。今回のセミナーでは、その成果をもとに、社長と女将という分業体制、家族とビジネスの境界が曖昧な家族経営の実態、ホスピタリティの中核を担う流動的な労働者である仲居さんの役割など、旅館を支える人と仕組みの実態を報告されました。お客さんの視点ではなかなか見ることができない旅館の「おもてなし」の仕組みを知ることができ、ホスピタリティー研究の進展に向けた有意義なセミナーとなりました(菊地直樹)。

注1 Chris McMorran, 2022, *Ryokan: Mobilizing Hospitality in Rural Japan*, University of Hawaii Press



Ryokan: Mobilizing Hospitality in Rural Japan
旅館—地方創生に向けたおもてなし

国際学・観光科学セミナー
英語講演、日本語通訳あり
2月6日(日)
10:00~11:30(9時45分開場)
オンライン開催
参加費無料・現下の新型コロナ感染拡大状況に鑑み、全面オンライン開催に変更いたしました。

日本の旅館は、どのようにしてくつろげる空間になっているのでしょうか? 黒川温泉で働いた経験もある文化地理学者のマクモラン氏が、旅館を支える人と仕組みの実態に迫ります。地域にとって、旅行者にとって、そしてそこで働く人々にとって、旅館はどのような役割を果たし、また、人々の「共感」を誘う場になっているか、一緒に考えてみませんか?

講師: クリス・マクモラン (シンガポール国立大学准教授)

アメリカ・アイオワ州出身。2008年にコロラド大学ボルダー校にて博士号取得後、シンガポール国立大学日本研究学科に勤務し、2010年より現職。観光、災害、ジェンダーと労働、フィールドワーク教育、ホスピタリティカルチャーなど、様々な分野で研究・教育活動に従事している。主な著作として *Ryokan: Mobilizing Hospitality in Rural Japan* (University of Hawaii Press, 2022年出版予定)、*Teaching Japanese Popular Culture* (Association of Asian Studies, 2016)。

主催: 金沢大学人間社会学域国際学類
共催: 金沢大学人間社会研究域附属 先端観光科学研究センター
申込方法: 右記のサイトからフォームを送信してください
お申込者には後日URLや入室パスワードなどをお送りします。
お問い合わせ先: rnakano@staff.kanazawa-u.ac.jp (国際学類・中野)

金沢大学 KANAZAWA
FCTS The Frontier Center for Tourism Science Kanazawa University
KUSIS Kanazawa University, School of International Studies



金沢大学 人間社会研究域附属 先端観光科学研究センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町 Kakumamachi, Kanazawa, Ishikawa 920-1192 JAPAN
URL <http://tabi-sciences.w3.kanazawa-u.ac.jp> ⑤ info-tabis@ml.kanazawa-u.ac.jp



先端観光科学研究センターニュースレター 2022年3月31日発行